

夫婦揃って農業こそ人生、営農50年のミニトマトづくり

寺原勝さん

昭和28年生まれ。神戸市で育ち、建設関係会社に就職。20歳の時、祖父母の住む東郷町坪谷に住み、建設関係の仕事をしてながら稲作の手伝いを始める。農業を始めて50年以上。趣味は仲間達と夜釣りに行くこと。

寺原はま子さん

昭和30年生まれ。市内の高校卒業後、市内の会社に就職した。勝さんと結婚後、会社勤めをしながら稲作の手伝いを始める。同じく、農業を始めて50年以上。趣味は友人と旅行に行くこと。



[始めたきっかけ]

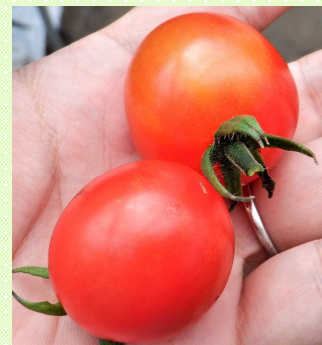
昭和48年に坪谷の実家で暮らすようになってから、兼業で父が始めていた稲作を手伝っていました。それから、昭和54年に結婚し、しばらく夫婦で稲作と会社勤めをしていました。転機となったのは、教育資金を得るために条件の良い作物を検討したところ、ミニトマトが良いと周囲から勧めがあり、平成3年から専業農家になりました。初めは、露地栽培を行っていましたが、平成7年に、土の菌が原因で急に株が緑色を残したまま枯れてしまう青枯病(あおがれびょう)が発生してしまいました。そのことをきっかけに、今も続けているビニールハウス栽培に切り替えました。当時は稲作に加え、ビニールハウス2棟を経営し、毎日朝7時から夜8時まで毎日作業していました。加えて、梱包は手作業で、出荷時期は夜通しで行っていました。

[苦労していること]

まず、燃油代が高騰していることです。農業を始めた頃には50円/ℓだったのですが、現在2倍以上になっています。梱包資材代や送料も値上がりしており、今後も気がかりです。ビニールハウスでの水耕栽培に切り替えた際、初めは上手くいっていましたが、すぐに苗の育ちが悪い等様々な問題が立て続けに起こりました。そのような状況の中、J A日向営農指導課等支援団体から指導を受けて、そのことが多くの問題解決や予防に結び付けました。営農指導担当の方々は、長年日々研究と勉強をされて、そのノウハウが過去から現在までの担当に引き継がれており、非常に頼もしい存在だと感じております。また、日向・東郷・西郷・門川地区のミニトマト部会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在開催できませんが、月に一度勉強会を行うなど盛んに交流があって、お互いによく知った仲です。選果場で共同出荷していることもあり、お互いに品質を落とさないよう、日頃から注意を払って選別に取り組んでいます。

[こだわりを教えてください]

トマト成熟前とにかく病気を出さない、出しても被害を最小限に食い止めることを一番にしています。病気や害となる生物は多種多様で、季節ごとに異なるため、ビニールハウス内の環境だけではなく、周囲の草刈りも重要です。また、病気の早期発見や苗の状態をこまめに確認するため、日中だけではなく、夜間にも苗の状態を確認しています。夜の状態を見た時、葉が立っていることが強い苗の証です。長く苗が強くと、薬剤の使用量は少なく済み、収穫量は多くなります。様々な問題を乗り越えて、無事に果実がなり、うっすらと赤みが出てきている様子を見る時が、何年続けても変わらないとても嬉しくなる瞬間です。



[長年農業を続けてきたことについて]

50年農業を続けてきていますが、今日まで辞めようと思ったことは一度もありません。自分達には、農業しかないと思います。生活のためということで続けてきた部分もありますが、夫婦揃ってとにかく楽しんで農業を続けています。ミニトマト栽培を行わなくなったハウスの中で、本業ではありませんが、ネギやハクサイ、ダイコン、タマネギの苗等を栽培しています。主な手入れは、ミニトマト栽培の空き時間で行います。今年は、食べ終わったスイカの種を植えていたら、立派なスイカが育ってきました。できた作物は、道の駅へ出荷したり、自分達で食べたり人にあげたりしています。遊びで育てていますが、食費やお酒代の助けにもなっています。農作業に集中していると、一日があっという間に過ぎ、夜もぐっすり眠れるので、心も体もととても健康な生活を送れていると思います。また、釣りや旅行などの趣味を持つことも、長年農業を続けていく上で大事だと感じています。

[今後の展望は]

稲作は、現在の90aから来年は60aに規模を縮小しようとは思っています。ミニトマト栽培に関しては、ほとんど重労働がないため、現在の規模でしばらく続けられると思っています。また、県外に出ている息子達が帰ってきて、あとを継いでくれることが一番望ましいとは思っています。